

## 概要

- 奈良県の北西部では、夏秋期出荷を中心とした小ギク、二輪ギクなどの特殊ギクの生産が行われている。小ギクでは盆時期の開花期が安定しないこと、5～6月向け切花の茎長確保が難しいこと、特殊ギクでは芽かきの作業負担が大きいことが問題。
- このため、生産現場での課題解決に向けた新品種育成のため、県内のキク関係者で構成される『キク品種選定普及会議』を開催。会議では、育種目標の設定から新品種の特性を踏まえた活用方法までを一体的に協議し、新品種の育成・普及に取り組んだ。
- その結果、小ギクでは盆向けが3品種、5～6月向けが4品種、特殊ギクの二輪ギク1品種を育成、産地内での普及がすすめられている。

## 具体的な成果

### ○キク品種の育成と普及

■ 産地で発生している栽培上、品質上の課題に対応した品種を開発

①開花期の年次変動が小さい8月盆咲き小ギク品種(R7)

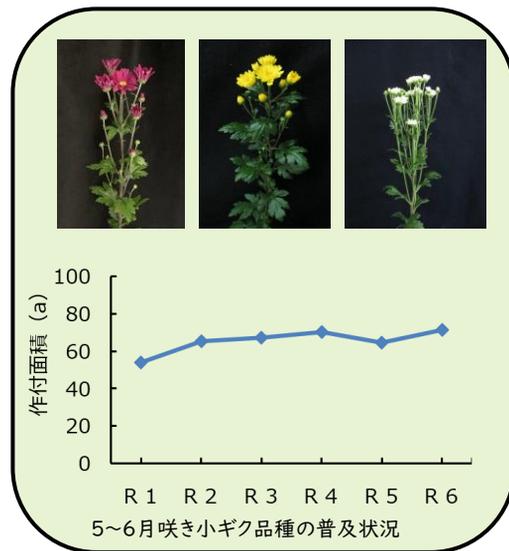
登録品種数 : 3品種  
作付面積・戸数 : 34.6a・37戸

②開花が早く、茎伸長性に優れた5～6月咲き小ギク品種(R7)

登録品種数 : 4品種  
作付面積・戸数 : 71.4a・57戸

③わき芽の発生が少ない二輪ギクなど特殊ギク品種(R7)

登録品種数 : 1品種（一部の産地で作付）



## 普及指導員の活動

令和2年  
～令和7年

### ■ 『キク品種選定普及会議』の開催

県内のキク関係者（生産者組織、JA、市場、県研究、行政および普及組織）で構成された会議を開催。会議では、育種目標の設定、有望系統の現地試作の調整、新品種候補の選定、新品種の特性を踏まえた活用方法などを検討。

### ■ 有望系統の現地試作

キク産地で行う現地試作について、複数の試作系統があるため試作者、件数を調整。試作では、栽培特性および開花時期などを研究員とともに巡回調査し、系統の特性把握に取り組んだ。

### ■ 新品種の普及

新品種の作付圃場は、現場の普及指導員が巡回時に生育状況などを確認し、栽培のフォローアップに取り組んでいる。



## 普及指導員だからできたこと

・普及組織のコーディネート力により、生産から流通までの関係者が参加する会議を主催し、意見を調整することができた。また、日ごろから産地内で活動しており、生産者が抱える課題を適切に把握し、品種育成を担う県試験場の研究員とも専門的な相談ができたため、効率的かつ実用的な品種の開発につながられた。

別紙「PR資料作成上の留意点」（詳細資料）

奈良県

## 県内キク産地の競争力強化に向けた品種育成・普及の取組

活動期間：令和2年度～令和7年度（活動中）

### 1. 取組の背景

奈良県におけるキク生産は作付面積9,470ha、出荷量4,350万本（いずれも令和5年産農林水産省統計）であり、本県の主要な農産物となっている。主な産地は県北西部に形成され、夏秋期向けの小ギクの生産が盛んに行われ、一部で二輪ギクやミス菊などの特殊ギクも産出されている。

そのようななか、小ギクでは気象変動の影響から高需要期に安定出荷できないこと、特殊ギクでは芽かきの作業負担が大きいことが問題となっている。そこで、開花期の年次変動が小さい8月盆向け品種、開花が早く、低温期の茎伸長性に優れた5～6月向け品種、わき芽の発生が少ない特殊ギク品種の育成および普及について、関係機関と連携して取り組んだ。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）キク品種選定普及会議の開催

生産現場における課題や意見を反映するため、生産者組織、JA、市場、県研究、行政および普及組織で構成されるキク品種選定普及会議（以下、会議）を年2～3回の頻度で開催。会議では育種目標、系統の現地試作、新品種候補の選定、新品種の特性を踏まえた活用方法などを検討した。



品種選定普及会議

#### （2）新系統の育成および現地試作

育種目標に対応した新系統の育成は、県研究機関において実施。目標に合致した特性を有する育成系統を会議時に開花品質を確認し、出席者からの意見を参考として、有望系統を選抜した。

その後、現地試作を実施。有望系統は毎年、複数の系統となるため試作者、件数を普及指導員が調整。特性調査は県研究員、普及指導員が生育、開花期などを調査。試作結果や生産者の評価を総合的に検討し、品種登録出願の可否を会議で判断した。また、出願する系統の流通候補名を会議構成員から募り、参加者の投票で決定した。



会議時の育成系統の確認

#### （3）新品種普及の取り組み

計画出荷、高品質化につながる品種として、生産者への紹介や栽培指導を行い、産地への普及を図った。併せて、市場や共同出荷場において、切花を展示するなど実需者への周知に取り組んだ。



市場での育成品種の展示

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 有望系統の品種登録

2年以上の現地試作を通じて、栽培および切花品質に関する調査結果が良好で、生産者から優れていると評価された有望系統は、会議での議論を経て、県担当課により品種登録がすすめられた。これまでに、小ギクでは7品種、特殊ギクでは1品種が登録されている。

開花期の年次変動が小さい8月盆向けの小ギク品種は、花弁が赤色の「春日の紅」「春日の鈴音」、花弁が黄色の「春日Y2」（流通名：春日の星）が品種登録され、現在は花弁が白色の系統の選抜がすすめられている。

また、開花が早く、低温期の茎伸長性に優れた5～6月向け小ギク品種は、花弁が赤色の「春日R1」（流通名：春日の姫）、花弁が黄色の「春日Y1」（流通名：春日の光）、花弁が白色の「春日W1」（流通名：春日の泉）および「春日W2」（流通名：春日の空）が品種登録されている。

さらに、わき芽の発生が少ない二輪ギクなどの特殊ギク品種は、花弁が黄色の二輪ギク「千都の舞」が品種登録されている。



春日R1  
(流通名：春日の姫)



春日Y1  
(流通名：春日の光)



春日W1  
(流通名：春日の泉)



春日W2  
(流通名：春日の空)

写真 品種登録された5～6月咲き小ギク)

#### (2) 新品種の普及状況

本取組により品種登録された品種の令和6年の作付面積は、開花時期の年次変動が少ない7～8月咲き小ギク品種は3品種で34.

6a、37戸低温期の茎伸長性に優れた5～6月向け小ギク品種は4品種で71.4a、57戸で栽培され、特殊ギクは一部の産地で作付されている。

品種の作付圃場は、現場の普及指導員が巡回時に生育状況などを確認し、栽培のフォローアップに取り組んでいる。

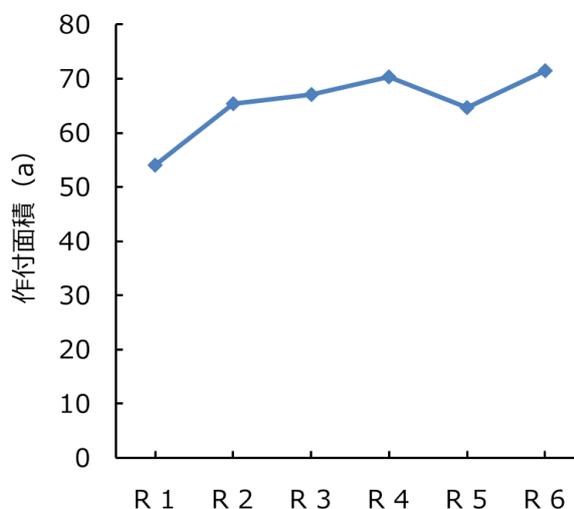


図 5～6月咲き小ギク品種の普及状況

#### 4. 農家等からの評価・コメント

##### (奈良県農協・西和花卉部会会員・A氏)

生産現場の課題解決に向けて、栽培などの指導や支援をしていただいている。産地内で栽培するキク品種について、関係者による会議や生産者による試作などを通じて、現場の意見を反映できる取り組みとなっている。これまで、複数の品種が供給されているが、今後も現場で活用できる有望なキクの開発に期待したい。

#### 5. 普及指導員のコメント（農業水産振興課・主査・小島英）

県内でキクの生産や流通の関係者で構成される会議の存在により、実質的な新品種の育種目標の設定から普及までの意見交換を行うことができた。県の試験場、普及指導員が育成、現地試作、普及の活動を地域密着で展開できるため、効率的な育成、新品種の普及につながれたと考えられる。今後も現場のニーズに対応した品種開発を含めた支援により、産地の活性化を図っていききたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

近年の気象変動は著しく、小ギクの茎長が短い、開花期が高需要期の物日に合わないケースが発生している。また、高温期の長期化や極端な長雨などで病害虫が多発する年もある。今後も、県内のキク関係者間の意見交換、課題への連携した対応を継続し、産地に近い強みを活かしたキク品種の育成など、産地の競争力強化につながる取り組みをすすめていく。